

研究主題 「確かな学力」を身に付けさせるための語い指導の工夫

－筋道を立てて考え表現するために必要な語いを豊かにするために－

東京都教職員研修センター研修部教育経営課
渋谷区立本町小学校 主幹 須釜 久美子

I 研究のねらい

1 研究主題設定の理由

言葉は、「確かな学力」を形成するための基盤であり、思考力や感受性を支えるものであると、中央教育審議会は平成18年2月の審議経過報告で述べている。この思考力とは「確かな学力」の資質・能力の一つとされている。

また、文化審議会国語分科会は、平成16年2月の答申の中で、「深く思考するには豊かな語彙が不可欠である。」と述べており、この語いとは、個人が身に付けている言葉の総体と定義している。そして、思考力の中でも論理的思考力を重視し、「情緒力と論理的思考力を根底で支えるのが語彙力である。」と述べている。

しかし、児童の語いの量は、言語環境、読書量、生活経験などによって個人差が見られる。また、語い指導を読むことや書くことなどの中で合わせて学習すると、教材によって指導する語いが制約されてしまう傾向がある。

そのため、「確かな学力」を身に付けさせるためには、語いを計画的に指導することが必要であると考えた。この研究では、特に論理的思考力に着目し、筋道を立てて自分の考えをまとめたり表現したりするときに大切な語いを精選し、その指導の工夫を研究することにした。

児童が国語科教育の中で学習した語いは、他教科等の中で自分の考えをまとめたり表現したりするときにも役立つであろうと考えた。

2 研究仮説

筋道を立てて考え表現するために必要な語いを工夫して指導することによって、児童の語いは豊かになり、他教科等の中で児童が考えをまとめたり表現したりするときにも役立つであろう。

II 研究の内容と方法

1 基礎研究・先行研究

(1) 筋道を立てて考え表現するために必要な語いの精選について（補助資料1参照）

先行研究や文献を参考に、①～④の観点で語いを精選した。分類は、国立国語研究所編「分類語彙表－増補改訂版」（平成16年 大日本図書）に基づいて行った。

① 体の類（名称を表す語で名詞の類）について

小学校国語科教科書で使われている語のうち、上位語として使うことのできる語を抽出した。上位語は下位語に比べてより抽象的な語であり、論理的思考力を高めるためには抽象的思考の活性化が大切だからである。

② 用の類（存在・活動を叙述する語で動詞の類）について

他教科の教科書でよく使用される語の中で、説明的文章を理解するために必要な語を抽出した。説明的文章では、用・相・その他の類の用語は、繰り返し用いられる傾向があるからである。

③ 相の類（状態を叙述する語で、形容詞・副詞・連体詞の類）について

用の類と同じ理由から、他教科の教科書でよく使用される語の中で、説明的文

「確かな学力」を身に付けさせるための語い指導の工夫
 -筋道を立てて考え表現するために必要な語いを豊かにするために-

章を理解するために必要な語を抽出した。

④ **その他の類（一部の副詞、接続詞、感動詞）について**

小学校国語科教科書に使われている語の中で、「分類語彙表」で「接続」の意味分類に属する一部の副詞と接続詞を抽出した。このような論理関係を表す語は、論理的な思考には必要だからである。

(2) 語い指導の工夫について

① **単元構成の工夫**…筋道を立てて考え表現するために必要な語いを、国語科の学習の中で指導していくことが大切である。しかし、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習と併せて指導すると、取り上げることが難しい語句が出てくる。そこで、必要な語いを確実に指導する機会をもつために、言語事項として単元を開発することにした。

② **指導内容の工夫**…指導したい語句を単独で扱うのではなく、語句のまとまりとして扱うことにした。類義語同士・対義語同士を比較して、見方を変えさせたり新しい気付きを引き出したりして、それぞれの語句の意味を理解させることにした。

③ **学習活動の工夫**…語句を入れ替えて文を作るなど、学習した語句を使って表現する活動を通して、使用語いとしての定着を図ることにした。

④ **個別指導の工夫**…事前の実態調査や評価規準を基に、個のつまずきに合った手だてを準備することにした。

2 調査研究

(1) 調査研究の方法と目的

筋道を立てて考え表現するために必要な語いを、小学校第3学年の児童がどの程度理解し使用しているかを確認した上で、指導の在り方を検討することにした。

(2) 調査研究の結果と考察

① 理解語いの調査（調査対象 都内公立小学校8校 第3学年 児童511名）
 ア「分類語彙表」で「理由・目的・根拠」「思考・意見・疑い」「注意・認知・了解」に分類される語は考えを表現するときに特に大切だと考え、その中から「わけ」「考え」「分かる」について読んで理解できるか調査することにした。その結果どれも正答率が80%を超えていた。したがって、自分の考えを表現するために、これらの語を使うことができるであろうと考えた。

イ 児童にとって身近な上位語・下位語の関係についての知識・理解の傾向を把握した。その結果、どの項目も正答率が80%を超えていた。したがって、語句について、意味のまとまりごとに分類する学習ができると考えた。



上位語・下位語の理解調査

(太字は正答例・%は正答率)

上位	季節 89%			
下位	冬 95%	秋	夏	春

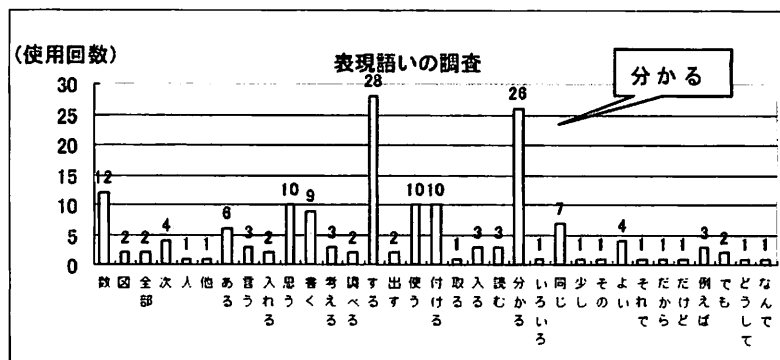
上位	食べ物・食物 87%			
	菓子・おやつ 92%	果物	野菜 92%	
下位	せんべい	チョコレート	()91%	()94% 大根

② 表現語いの調査（調査対象 都内公立小学校 第3学年 児童22名 サンプル数85）

算数の学習で分かったことの記述から、児童が使用している語いの種類と回数を調査した。他教科として算数を選んだのは、論理が明確で、筋道を立てて考え

ていくのに適しているからである。調査の結果、筋道を立てて考え表現するために必要な語いのうち、接続の類に属する副詞や接続詞の使用回数はどれも3回以下であった。

また、「注意・認知・了解」の類に属する動詞「分かる」を使っている記述は26である。この記述のうち、具体的事例から分かったことを一般化してまとめることができたものは、11だけであっ



た。筋道を立てて考え表現するためには、考えとその理由や事例を区別することが大切である。それには、文と文の適切なつなぎ方の指導が必要と考え、単元の開発をすることにした。(補助資料2参照)

③ 説明的文章の理解調査 (調査対象 都内公立小学校 第3学年 児童46名)

説明的文章を読んで内容を短い言葉でまとめる課題から、重要語句の理解度を把握した。重要語句「たまご」と答えた児童は、70%以上である。しかし、重要な三つの下位語「つばめ」「あげは」「いしがめ」を一つの上位語にまとめて「生き物のたまご」と答えることができた児童は、40%に満たなかった。このことから、文章から同じ類の下位語を読み取りそれらを一つの上位語でまとめるのは、難しいことが分かった。語句の知識・理解を確実にするためには、文脈の中で、書いたり読んだりする活動が必要だと考えられる。

3 検証授業

(1) 単元名「言葉図かんを作ろう」

(2) 単元目標

- ・ 「考える」の複合語である「考え込む」「考え付く」「考え出す」「考え直す」を使った文を考えることで、それぞれの複合語の意味を理解させる。
- ・ 複合語を使った文を作り、自分の表現活動に生かそうとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

- ・ 動きを表す複合語に関心を持ち、辞書を使ってすすんで調べようとしている。
(関心・意欲・態度)
- ・ 動きを表す複合語の意味を理解しそれらの複合語を使って文を作っている。
(言語についての知識・理解・技能)

(4) 単元の展開

1時	複合語についての言葉図鑑を作るという学習のめあてをもつ。
2時	「考える」に関係する複合語を作り、複合語を使って文を作る。
3時	「歩く・思う・聞く・探す・飛ぶ・見る」に関係する複合語を作り、複合語を使って文を作る。
4時	目次を作り、言葉図鑑を製本する。

「確かな学力」を身に付けさせるための語い指導の工夫
 ー筋道を立てて考え表現するために必要な語いを豊かにするためにー

(5) 指導の工夫

① 単元構成の工夫

児童の意欲が高まるように、言葉図鑑作りというめあてをもたせた。

② 指導内容の工夫

動詞の複合語を「組み合わせた言葉」として取り上げた。複合語同士を比べてそれぞれの複合語の意味を理解できるようにした。

③ 学習活動の工夫

複合語は二つの動詞から成り立っているものがあることに気付かせるため、複合語を使って文作りをする際、二つのさいころを振って出た動詞と動詞を組み合わせて複合語にするという活動を取り入れた。

④ 個に応じた指導の工夫

例文を提示したり辞書や友達の記事を参考にできるような約束を作ったりして、どの児童も複合語を使って文が書けるようにした。

(6) 成果と課題

① 言葉図鑑作りというめあてをもたせることで、言葉の絵本や辞書に興味をもつ児童が増え、言葉に対する関心が高まった。

理解語いの調査

調査項目	授業前	授業後
考え(る)	94%	98%
分かる	89%	93%

② 「考える」「分かる」について理解調査を行ったところ、学習前に比べ学習後の方が、正答率が上がり、理解が深まったことが言える。

③ さいころを使い偶然に出た動詞を組み合わせて複合語を作る活動をしたことで、評価がBに満たない児童も、意欲的に学習に参加できた。また、評価がAの児童は、言葉を操作すること自体を楽しみ、活動に参加できた。

学習の感想と評価の関係

児童の学習後の感想 「楽しかったこと」	児童に対する評価		
	A	B	C
① 文や言葉を作ったこと	18%	21%	11%
② 意味を考えたこと	3%	0%	3%
③ ゲームをしたこと	13%	18%	13%

④ 複合語を作ることはできていたが、児童の作った文のうち37%程度に個別指導の必要があった。このことから、適否の評価が児童自身や児童相互では難しかったことが分かる。その原因は、児童自身は適切な文を作っていると思っているので、辞書で意味や文例を確かめる必要性を感じなかったためだと考えられる。評価の観点を明確にし、自己評価・相互評価の方法をさらに工夫する必要がある。

第3時の評価規準

A	・語の意味に合った文であり、修飾語などを使って工夫している。
B	・語の意味に合った文を作っている。
C	・文法的には正しいが、その語を使用する必然性のない文を作っている。 ・語の意味に合わない文を作っている。

III 研究の結果と考察

- ・筋道を立てて考え表現するために必要な語いを選び、工夫して指導したことで、児童の言葉への関心が高まり、学習した語いの理解が深まった。
- ・学習した語いを他教科でも適切に使っているか、今後も追跡調査が必要である。

IV 今後の課題

- ・「生きる力」の育成には、確かな学力を身に付けさせるとともに豊かな心をはぐくむことも必要である。そのために、想像力・情緒力を活性化する観点から語いを精選し、それらの語い指導の単元をさらに開発していく。

I [資料1] 筋道を立てて自分の考え表現するために必要な語いの精選

精選の観点
(1) 体の類 …他の語に対して上位語となる名詞
(2) 用・相の類 …算数・理科の教科書で使用頻度の高い動詞・形容詞・副詞・連体詞の中で、説明的な文章でも使用頻度の高いもの
(3) その他の類 …国立国語研究所編「分類語彙表」で「接続」に分類される副詞・接続詞のうち、小学校国語科教科書に出てくる語（連語も含む）

1 体の類

(掲載は主に五十音順)

上位語 ← → 下位語 (※下位語については、代表例を掲載した。)

低 学 年	いち	上・下・中・左・右	
	色	青・赤・黄・黒・白	
	楽き	カスタネット・クラリネット・すず・トランペット・ハープ	
	数	一・二・三・四・五・六・七・八・九・十	
	金	一円・十円・百円・千円・一万円	
	体	頭・首・手・足・顔（目・はな・口・耳）	
	きせつ	春・夏・秋・冬	
	教科	音楽・国語・算数・社会・図画工作・生活・体育・理科	
	くだもの	サクランボ・ミカン・モモ・リンゴ	
	字・文字	かな（かたかな・ひらがな）・漢字・ローマ字	
	魚	アジ・イワシ・サワラ・サバ・サンマ・タイ・ヒラメ・フナ・マグロ	
	自どう車	きゅうきゅう車・クレーン車・バス・トラック・しょうぼう車・タクシー	
	食べ物	米・肉・麦・豆	
	天気	雨・雨天・晴れ・晴天	
	道具	かなづち・きり・シャベル・ナイフ・のこぎり・バケツ・はさみ・ ほうちょう	
	どうぶつ	イヌ・カバ・キリン・サル・ゾウ・トラ・ネコ・ネズミ・ロバ・ライオン	
	時	朝・昼・夜・午前・午後	
	鳥	カラス・スズメ・タカ・ハト	
	のりもの	オートバイ・自てん車・電車・トラック・バス・ひこうき・船	
	はきもの	くつ・げた・ぞうり	
花	アサガオ・タンポポ・ヒマワリ		
日づけ	一日・二日・三日		
人	家ぞく	親	父・母
		子	妹・弟・兄・姉

「確かな学力」を身に付けさせるための語い指導の工夫
 —筋道を立てて考え表現するために必要な語いを豊かにするために—

低 学 年	人	男・女 大人・子ども
	ふく	シャツ・スカート・ズボン・セーター
	方角	北・西・東・南
	方こう	左・右・前・後
	野さい	キュウリ・ダイコン・トマト・ナス
	曜日	月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日・日曜日
中 学 年	たてももの	家・駅・学校・教会・銀行・工場・交番・しょうぼうしょ・神社・トイレ・病院・店（おかし屋・コンビニエンスストア・スーパー・デパート・花屋・レストラン）・ゆうびん局
	こん虫	アリ・セミ・チョウ・トンボ・バッタ
	動物	貝・けもの・鳥・虫
	本	詩・伝記・童話・物語
高 学 年	交通	道路・鉄道・港・空港
	産業	漁業・建設・工業・商業・農業
	通信	電報・電話・放送・郵便

※ そのほかに筋道を立てて考え表現するために必要な語い…家・形・しるし・全部・次・初め・ほか・
 周り・水・理由・わたし（たち）・わけ

2 用の類

低	表す・ある・言う・行く・居る・入れる・思う・書く・考える・聞く・来る・調べる・する・出す・食べる・使う・付ける・取る・入る・はかる・もつ・読む・分かる
中	発見する
高	

3 相の類

低	いちばん・いろいろ・大きい・同じ・小さい・もっと・この・その・ちがう・どう・どんな・長い・もう・よい
中	さらに
高	

4 その他

低	けれど・けれども・すると・そうして・そこで・そして・それから・それで・それでも・だから・だって・ですから・では・でも・どうして・ところが・なぜ・また
中	さて・しかし・それに・ただし・たとえば・つまり・ところで・なんで
高	あるいは・一方・が・しかも・したがって・それとも・だが・ただ・なのに・または

II [資料2] 算数科に生かす語い指導の実践例

1 単元名「わけをせつめいしよう」

2 単元の目標

理由も合わせて説明すると自分の思いや考えが相手に伝わることを知り、理由を説明するための語句や文末表現を自分の表現に生かすことができる。

3 単元の評価規準

- 理由を説明するための語句や文末表現に関心をもち、思いや考えをすすんで表現しようとしている。
(関心・意欲・態度)
- 自分の思いや考えを表現する際に、理由を説明するための語句や文末表現を適切に使っている。
(言語についての知識・理解・技能)

4 指導の工夫

(1) 単元構成の工夫

理由を説明する学習が、算数の「正方形と長方形」の学習に生かせるよう、算数の年間計画に合わせて指導を行うことにした。

(2) 指導内容の工夫

理由を説明するための語句の仲間として、国立国語研究所編「分類語彙表一増補改訂版」(大日本図書)による意味分類「理由・目的・根拠」に属する語を取り上げることにした。

(3) 学習活動の工夫

児童が、意欲をもっていろいろな語句を操作する機会をつくるために、理由を説明するための語句と問題をカードにして、自分が選んだ語句を使って正しい文を作り、問題に答える学習活動を考えた。

(4) 個別指導の工夫

理由を説明するための語句や文末表現が思い浮かばない児童のために、ヒントカードとして話型カードを準備した。

5 単元の展開

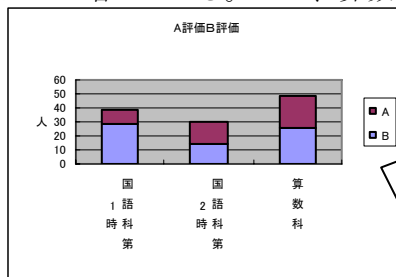
時	○学習活動	●評価 ※支援
1	○ 学習のめあてをもち、理由を説明するための語句を使って話したり書いたりする。 問題 明るいときは開いていて、暗くなると閉じるものは何か。 (3) 9月の目標とその理由について文章を書く。	● 自分の好きなものややりたいことについて、理由を説明するための語句を正しく使いながら、自分の気持ちを話したり書いたりしている。 ※ 理由を説明するための語句を忘れずに使えるよう、掲示しておく。「なぜか」と「なぜなら」「どうしてか」と「(その) わけは」「理由は」「・・・からです。」)
2	○ 理由を説明するための語句を使い自分の考えを説明する。 (1) 野菜か果物か分類し、その理由を説明する。 (2) ワークシートに自分の考えた答えとその理由を書く。	● 理由を説明するための語句を正しく使いながら、自分の考えを話したり書いたりしている。 ※ 理由を説明するための語句を書いていない児童には、ヒントカードを渡し、カードを見て書くよう助言する。

算数科	○ 第2学年で学習した「三角形と四角形」の既習事項を確認する。 (1) 三角形の定義に基づいて図形を分類し、理由を説明する。 (2) 四角形の定義に基づいて図形を分類し、理由を説明する。	● 理由を説明するための語句を使って、三角形や四角形かどうか自分の考えを説明している。 ※ 分類するときに大事な三つの観点を基に分類するよう、キーワードと話型についてヒントカードを渡して助言する。
-----	---	---

6 考察

(1) 単元構成の工夫について

算数の「正方形と長方形」の学習では、理由を説明するための語句を使う児童が、国語科の学習に比べ増えている。また、算数のあまりのある割り算の学習の中でも、自分の考えを説明するときに理由を説明するための語句を使う児童が増えてきた。このことから、国語科での語いの指導が算数科にも生かされていることが分かった。



評価規準

A 理由を説明するための語句を使い、自分の気持ちや考えを詳しく表現している。
 (例)なぜかというと、今までも一位になったことがないので、今年こそ一位になりたいからです。)

B 理由を説明するための語句を使い、自分の気持ちや考えを表現している。(例)なぜかというと、一位になりたいからです。)

※ 算数科の授業で評価がBに満たない児童のうち2名は、どちらも「からです。」という文末表現を使うことができています。

(2) 指導内容の工夫について

感想を書いた児童は23名であった。これらの記述の内容から、理由を説明するための語句を集めて指導したことにより、理由を説明しようとする意欲や言葉への関心が高まったと考えられる。

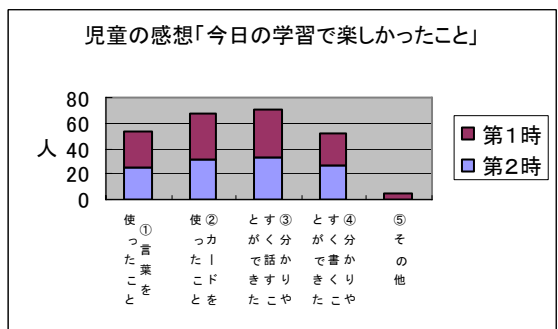
第1時の感想 (記述した児童23名)

(名)

訳を言わないと相手には伝わらないことが分かった。	7
訳を説明する言葉はいろいろあることが分かった。初めて知った言葉があった。言葉は違うのに意味が同じことが分かった。	6
訳を説明する言葉をこれからも使ってみたい。便利だと思った。	4
訳を説明する言葉を使うと、意味がよく分かった。	2
訳を説明するときに、説明する言葉を使うことを知った。使い方が分かった。	2
文の終わりには「からです。」を付けることが分かった。	2

(3) 学習活動の工夫について

児童に、学習で楽しかったことを、選択肢から選ばせた。その結果、②を選んだ児童は、③も選んだ割合が高く、第1時では83%、第2時では87%であった。このことから、カードは意欲を高めると同時に、理由を適切に説明する手だてにもなっていたことが分かる。



(4) 個別指導の工夫について

文を作ることが難しい児童のために、理由を説明するための語句のヒントカードを準備した。

第1時に理由を説明するための語句を使わないで文章を書いた児童は、49人中2名であった。これは、理由を説明するための語句をまとめたワークシートがヒントカードの役割を果たしていたので、ヒントカードが必要だった児童も自力で書くことができたと考えられる。

第2時は、問題が難しいので、問題の答えのヒントカードも有効である。また、答え方の文章構成を確認できるようなヒントカードがあると、理由を説明する語句も意識して使うことができる。

算数の学習では、図形を分類する際、具体的に説明するためのヒントカードも有効である。例えば、「これは、三角形ではありません。なぜなら、3本の直線で囲まれていないからです。」という表現より「なぜなら、線が曲がっているので直線ではないからです。」の方が具体的である。このような説明の仕方を全員に理解させるには、ヒントカードだけでなくさらに個別指導が必要である。